

6 説明的文章1 要約する

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

- ① 言語はわれわれの話をするための道具であるが、またおしる考えのための道具である。言語なしに「考える」ことはできそうもない。動物心理学者はなんと教えるか知らないが、¹私には牛馬や鳶鳥が物を「考える」とは想像できない。考えの式を組み立てるための記号をもたないと思われるからである。聾啞者^{ろうあしや}には音響の言語はないが、これに代わるべき動作の言語がちゃんと備わっているのである。
- ② 数学では最初に若干の公理前提を置いて、あとは論理に従って前提の中に含まれているものを分析し、分析したものを組み立ててゆくのであるが、われわれの言語によって考えを運んでゆく過程もかなりこれと似たところがある。もちろん、数学の公理や論理はきわめて簡単明瞭であり、使用される概念も明確に制定されているに反して、言語による思考の場合では、これらのすべてのものが複雑に多義的であるから、一見同様な前提から多種多様な結論が生まれ出るように見える。しかし実際の場合に前提の数が非常に多いから全く同一な前提群から出発するという事は実はあり得ないのである。

(中略)

- ③ ²語学を修得するにまず単語を覚え文法を覚えなければならぬ。しかしただそれを通り理解し暗記しただけでは自分で話す事もできなければ文章も書けない。長い修練によってそれをすっかり体得した上で、始めて自分自身の考えを運ぶ道具にする事ができる。
- ④ 数学でも、ただ教科書や講義のノートにある事がらを全部理解しただけではなかなか自分の用には立たない。やはりいろいろな符号の意味をすっかり徹底的にのみ込む事はもちろん、またいろいろな公式をかなりの程度まで暗記して、一度わがものにしてしまわなければ実際の計算は困難である。
- ⑤ それで語学も数学もその修得は一気呵成^{いっきかせい}にはできない。平たくいえば、飽きずに急がずに長く時間をかける事が、少なくとも「必要条件」の一つである。

⑥ ただしこれだけでは「充分なる条件」ではない。いくら単語をたくさん覚え、文法をそらんじてもよい文章は書けないと同様に、いくら数学に習熟してもそれで立派なオリジナルな論文が書けるとは限らない。これはいうまでもない事である。

(寺田寅彦「数学と語学」から)

(1) ¹私には牛馬や鳶鳥^{とんびからず}が物を「考える」とは想像できない。とありますが、それはなぜですか。「言語」「道具」という言葉を必ず用いて、簡潔に説明しなさい。

(例) 牛馬や鳶鳥は考えるための道具である言語をもっていないと思われるから。

注 「なぜか」と理由を問われたときは、文末を「〜から。」と結ぼう。

(2) ²語学を修得するにまず単語を覚え文法を覚えなければならぬ。とありますが、数学において語学の場合の「単語」「文法」に当たるものは何ですか。④段落から探し、答えなさい。

符号

公式

(3) 次の条件に従って③〜⑥段落を要約しなさい。

- 「修得」「必要条件」「充分なる条件」という語句を必ず使うこと。
- 一〇〇字以内で要約すること。

(例)

	語学や数学を修得するには単語や文法、	符号や公式などを覚えるために、飽きず	に急がずに長く時間をかけることだが少な	くとも必要条件の一つである。	れだけでは充分なる条件ではない。
--	--------------------	--------------------	---------------------	----------------	------------------